

## 若手研究者海外派遣プログラム報告書

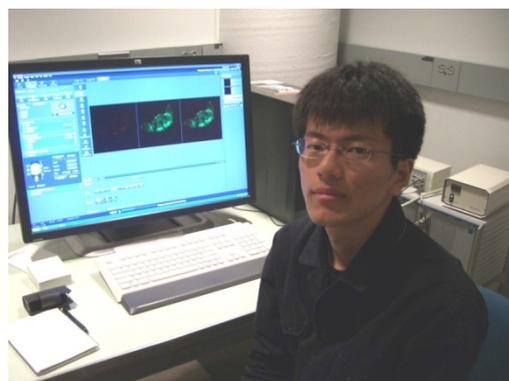
首都大学東京・理工学研究科・生命科学専攻・博士前期課程 2 年・佐藤翔馬

出張先：アイオワ大学 (University of Iowa)

出張期間：2011/09/01～09/10

若手研究者海外派遣プログラムの助成により、アメリカ合衆国・アイオワ州に位置するアイオワ大学の北本年弘博士のもとへ訪問させて頂いた。北本博士はショウジョウバエを用いた行動を制御する神経系に関する研究を行っており、当研究室の坂井貴臣博士はかつてその研究室に所属していた。そのため現在も共同研究を行っており、今回は実験技術の習得と現在行っている研究のディスカッションを目的として訪問した。

実験技術としてはハエ摘出脳の抗体染色法と、*in situ* ハイブリダイゼーション法を教わった。これらの実験法は今後当研究室で実際に活用するため、基礎的な事柄から必要な道具や試薬、細かい注意点など数々の助言をいただいた。また北本研究室で行っているイメージングやトラッキングの方法についても聞くことができ、今後の研究に有益な情報を得ることができた。さらに同大学の Chun-Fang Wu 研究室との合同



顕微鏡部屋にて (本人)

Meeting において、自身の研究発表を行った。研究発表では拙い英語であったが、大学院生や研究員の方たちと活発な議論を行うことができ、様々な助言を得られた。この経験を通じて英会話の重要性を再認識できた。

今回の訪問は 10 日という短い期間であったが、普段経験することのできない海外の研究室のシステムや雰囲気、現地の人々の生活などを知ることができ、そして何より英語力の必要性を痛感する機会を得られたため非常に有意義な渡航となった。最後に今渡航のサポートをして頂いた、新学術領域研究「神経系の動作原理を明らかにするためのシステム分子行動学」の代表である飯野雄一教授、および事務担当の石澤和子様には深く感謝いたします。